



日本ラクテーション・コンサルタント協会  
Japanese Association of Lactation Consultants (JALC)

〒065-0023 札幌市東区北 23 条東 1 丁目 7-5-202  
Fax:011-733-3188 Mail:contact\_jalc@yahoo.co.jp Web:www.jalc-net.jp

## アメリカ小児科学会の「乳幼児突然死症候群に関する方針宣言」に対する声明

2006 年 3 月 27 日

アメリカ小児科学会 (American Academy of Pediatrics:AAP) の乳幼児突然死症候群 (Sudden Infant Death Syndrome:SIDS) に関する調査委員会 (以下 SIDS 委員会と略) は、2005 年 10 月に「SIDS に関する方針宣言」<sup>1)</sup> (以下宣言と略) を発表しました。この宣言には、SIDS に関する新しい有益な情報がまとめられていますが、一方で科学的根拠がまだはっきりしていない勧告も含まれています。私たちはこの宣言をそのまま日本の指針として使うことはできないと考えます。

この宣言で問題となるのは、SIDS の予防を理由に母子同床/添い寝の中止とおしゃぶりの使用を勧告していることと、母乳育児推進を SIDS 予防のための戦略として推奨しないという見解を打ち出していることです。

宣言では、米国を含む西洋諸国では SIDS のリスクが高くなるという理由で、母子同床/添い寝の中止が勧告されています。近年の母乳育児推進の高まりを反映し、母乳育児の確立と維持に有用であることから、欧米でも母子同床/添い寝が広まりつつありますが<sup>2)3)</sup>、この勧告はそれに歯止めをかけようとするものです。

一方、日本を含むアジアなどの非西洋諸国では、母子同床/添い寝は長い伝統を持つごく自然な育児習慣となっています。しかし、SIDS のリスクが母子同床/添い寝によって高くなるという証拠は示されていません<sup>4)</sup>。むしろ完全母乳栄養児の場合、夜間の頻回授乳により、児は頻繁に覚醒し深い睡眠に至らないため、SIDS のリスクが減少すると考えられています<sup>5)</sup>。

日本において母子同床/添い寝の中止することは、科学的根拠が不足しているだけでなく、育児習慣や生活居住環境などを考慮すると現実的ではありません。これからの日本を含む非西洋諸国における SIDS に関する新たなデータの集積と、文化的背景を考慮した児の安全な睡眠環境に関する研究の進展が期待されます。

宣言では SIDS 予防のためにおしゃぶりの使用が勧告されていますが、おしゃぶりのデメリットについての評価は十分ではありません。おしゃぶりが母乳育児を様々な形で阻害することは多くの研究で示されており<sup>6-12)</sup>、さらに中耳炎の増加や歯列、咬合に対する影響なども指摘されています<sup>13)</sup>。また、おしゃぶりによる母乳育児の早期中止によってもたらされる、長期母乳育児のメリット<sup>2)</sup>の損失も軽視すべきではありません。

おしゃぶりの SIDS 予防の機序の一つとして児の覚醒閾値の低下が推測されていますが、そもそも母乳栄養児は夜間の頻繁な授乳のために覚醒することが多く、おしゃぶりを使用する必要はありません<sup>5)</sup>。おしゃぶりとは SIDS の真の因果関係は不明であることを考え合わせ、おしゃぶりの使用については慎重に考慮する必要があります。

宣言では、母乳育児推進を SIDS 予防のための戦略として推奨しないと述べられています。この見解は、SIDS のリスクを減少させるのは母乳育児そのものではなく、母乳育児に関連する因子であるという SIDS 委員会の考えによるものです<sup>1)</sup>。しかし、これまでの多くの研究によって母乳育児が SIDS のリスクを減少させることが示さ

れていることから<sup>14-16)</sup>、同じ AAP の母乳育児委員会<sup>2)</sup>や 米国の医学会や行政機関、母乳育児支援団体が参加する米国母乳育児委員会<sup>17)</sup>は SIDS 委員会のこの見解には同意していません。また母乳育児学会<sup>13)</sup>や国際ラクテーション・コンサルタント協会<sup>18)</sup>、ラ・レーチェ・リーグ・インターナショナル<sup>19)</sup>などの国際団体も、この見解には反対もしくは疑念の意を表明しています。

SIDS と母乳育児、おしゃぶり、母子同床/添い寝との関連については、多くの未解明の問題があります。ことに社会や文化、育児生活習慣などの背景が異なる場合、そのエビデンスはまだ十分であるとはいえません。SIDS の予防は小児保健における重要課題ですが、母乳育児の推進も同じように大きな課題です。両者はけっして相反する課題ではないと私たちは考えます。今後の研究の発展によって、SIDS 予防に関する科学的解明がさらに進展し、より適切な方針が示されることを心より期待するものです。

日本ラクテーション・コンサルタント協会(Japanese Association of Lactation Consultants : JALC)は、1999 年に設立された、国際認定ラクテーション・コンサルタント (International Board Certified Lactation Consultant: IBCLC) 及びその他の母乳育児支援にかかわる専門家のための非営利団体です。科学的な根拠に基づいた母乳育児支援の推進のために、母乳育児に関する学習会と出版および翻訳活動などを行っています。

## 参考文献

1. American Academy of Pediatrics .Task Force on Sudden Infant Death Syndrome. The Changing Concept of Sudden Infant Death Syndrome: Diagnostic Coding Shifts, Controversies Regarding the Sleeping Environment, and New Variables to Consider in Reducing Risk. *Pediatrics* 2005;116:1245-1255
2. American Academy of Pediatrics, Works Group on Breastfeeding. Breastfeeding and the use of human milk. *Pediatrics*. 2005;115:496-506
3. McKenna JJ, Mosko SS, Richard CA, Bedsharing promotes breastfeeding, *Pediatrics* 1997;100:214-219
4. Byard RW, Sudden infant death syndrome, In *Sudden Death in Infancy Childhood and Adolescence*, second ed., 2004, Cambridge, Cambridge University Press: p491-575
5. McKenna JJ, McDade T, Why babies should never sleep alone: A review of the co-sleeping controversy in relation to SIDS, bedsharing and breastfeeding. *Pediatr Resp Rev* 2005;6:134-152
6. Vogel AM, Hutchison BI, Mitchell EA. The impact of pacifier use on breastfeeding: A prospective cohort study, *J Pediatr Child Health* 2001;37:58-63
7. Ullah Ullah S, Griffith P, Dose the use of pacifiers shorten breastfeeding duration in infants? *Br J Community Nurts*. 2003;8:458-463
8. Soares ME, Giugliani ER, Braun ML et al., Pacifier use and its relationship with early weaning in infants born at a Child -Friendly Hospital. *J Pediatr (Rio J)*. 2003;79:309-316
9. Dewey KG, Nommsen-Rivers LA, Heinig MJ et al., Risk factors for suboptimal infant breastfeeding behavior, delayed onset of lactation, and excess neonatal weight loss. *Pediatrics*. 2003;112: 607-619
10. Gorbe E, Kohalmi B, Gaal G et al., The relationship between pacifier use, bottle feeding breastfeeding. *J Matern Fetal Neonatal Med*. 2002; 12:127-131
11. Marques NM, Lira PI, Lima NC et al., A breastfeeding and early weaning practices in northeast Brazil: A longitudinal study. *Pediatrics*. 2001;108:E66
12. Nelson E, Ly-Mee Y, Williams S and the International Child Care Pacifier Study Group Members. the International Child Care Pacifier Study: Breastfeeding and Pacifier Use. *J Hum Lact* 2005;21:289-295
13. Wight NE, McKenna JJ, Breastfeeding is associated with a lower risk of SIDS according to The Academy of Breastfeeding Medicine, ABM Release, Oct 14, 2005; [www.bfmed.org](http://www.bfmed.org)
14. Chen A, Rogan WJ, Breastfeeding and the risk of postneonatal death in the United States, *Pediatrics* 2004;113(5). Available at: [www.pediatrics.org/cgi/content/full/113/5/e435](http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/113/5/e435)
15. McKenna JJ, Mosko SS, Richard A, Bedsharing promotes breastfeeding, *Pediatrics* 1997;100:214-219
16. United States Breastfeeding Committee, Benefits of Breastfeeding, Raleigh NC; United States Breastfeeding Committee; 2002, [www.usbreastfeeding.org](http://www.usbreastfeeding.org)
17. United States Breastfeeding Committee, Mixed Credibility of Revised AAP SIDS Prevention Recommendations, Oct 17, 2005, [www.usbreastfeeding.org](http://www.usbreastfeeding.org)
18. International Lactation Consultant Association, ILCA Responds to Policy Statement by AAP Task Force on SIDS, 28 Novem 2005, [www.ilca.org](http://www.ilca.org)
19. ラ・レーチェ・リーグ・日本, アメリカ小児科学会「乳幼児突然死症候群に関する方針宣言」に対するラ・レーチェ・リーグ・インターナショナルの声明, 2005年10月, [www.lll-japan.com/](http://www.lll-japan.com/)